

第14回 最小侵襲脊椎治療 学会発表

手術室看護師 今代 元太

令和6年6月28・29日に岡山県倉敷市で開催された「第14回最小侵襲脊椎治療(MIST)学会」に参加し、症例発表をしてきました。

MISTとは最小侵襲脊椎治療の略語です。近年、低侵襲と言われる体への負担の少ない手術治療が広まっている中で、負担の大きい手術と言われている脊椎手術を、可能な限り低侵襲にして最大限の効果を得る治療手技をMISTと言います。

学会当日はあいにくの雨でしたが、各都道府県から、医師、看護師、放射線技師、リハビリテーションなど脊椎治療に携わる多くの職種の方々が参加しました。内容は、医師による脊椎治療についての演題発表、看護師の手術看護についての演題発表、エキスパートによる教育研修講演、脊椎手術に用いる手術機械のハンズオンセミナーなど、内容の充実した学会でした。多

くの医療関係の学会がある中で、これほど多職種が集まる学会は珍しく、大変有意義な会であったと思います。

私は、「脊椎手術におけるベンシーツカウントの実際」と題して、脊椎手術で実際に実践している工夫を発表しました。多くの方の前で発表する経験が少なく大変緊張しました。しかし、学会での発表や質疑応答は貴重な経験であり、発表の準備や想定質問に対する勉強なども必要で、大変勉強になりました。

学会発表の優秀演題賞は逃しましたが、このような学会に参加し演題発表という経験をし、最新の脊椎手術や看護について学ぶことができました。また、県外の方との交流ができ、とてもよい機会となりました。今後も積極的に学会参加を行い自己研鑽に努めたいと思います。

